

岩手チームが連覇達成

決勝 代々木にストレート勝ち

全国郵政バレー大会

第45回全国郵政バレーボール大会は9月26・27日、愛知県体育館で行われ、男子の部で郵政岩手が決勝で代々木（東京）を2-0のストレートで下し、2年連続4回目の優勝に輝いた。本県勢の連覇は初。予選リーグから安定したサーブカットと多彩な攻撃で頂点をつかみ取った。

大会には全国各地から男子12チーム、女子9チームが出場。予選リーグ、決勝トーナメントで優勝を争った。

郵政岩手は、胆沢郵便局の佐藤安雄局長を監督に胆江内外の郵便局員で構成。県内トップで活躍する選手がそろっており、今大会も優勝候補の筆頭として会場に乗り込んだ。

今大会では、攻撃力のある高橋卓禎主将（横川目郵便局）をバックに下げて守備を強化。レフト小野寺優宝（胆沢郵便局）、菊池翠（水沢郵便局）、1位の垂直ジャンプを誇るハーフレフト川村裕太（花巻・四日町郵便局）ら強力な攻撃陣は今季も健在。順調に予選を勝ち上がった。

決勝トーナメント1回戦は、JPKグループ本社に2-0で完勝。決勝進出を懸け、国体選手の大型エースを擁する強敵・郵政札幌との準決勝に臨んだ。

2年連続4回目の優勝に輝いた郵政岩手チーム（提供）

第1セットは試合開始と同時に相手の強烈なサーブが止まらず連続失点。中盤以降追い上げるも17-21で最初のセットを失った。タイムアウト中は佐藤監督から「動揺するな」と激しい喝。サーブカットを中に集めることを確認すると、第2セットからは徐々に岩手ペース。セッター菅原亮太（胆沢郵便局）の正確なトスワークでアタッカー陣が得点を重ね、逆転勝ちで決勝進出を決めた。

決勝の代々木戦は、常に先行する展開。どこからでも打てるアタック陣がオープン、時間差、A、Bとネット際で躍動。及川竜弥（水沢郵便局）の好レシーブもあり、最後まで相手を寄せ付けなかった。

「コンビバレーを生かして相手のブロックにつかまらなかった」と佐藤監督。両サイドのエースの活躍とセッター菅原の最後までぶれなかったトスワークを大きな勝因に挙げた。「レシーブもこれまでのチームで一番良かった」。攻守にまとまる総合力で勝ち取った優勝に胸を張った。

守ってきた佐藤監督は「負けたら監督の責任。勝ったら選手のおかげ」と笑顔。レベラアツプを続けるチームの力を再確認した今大会。「来年は3連覇を狙いたい」と次を見据え力強く話した。

第45回 全国郵政バレーボール大会

主催：郵政バレーボール連盟 主幹：郵政バレーボール連盟 東海支社支部

